

## 次世代ユネスコ国内委員会の取組状況について（中間報告）

令和 4 年 9 月

本報告書では、次世代ユネスコ国内委員会が令和 4 年 3 月に発表した提言「ユネスコ活動の活性化に向けて」の各アクションプラン取組状況について報告する。

## 1. 次世代ユネスコ国内委員会について

### ○設置経緯および活動目的

日本のユネスコ加盟 70 周年に際し、今後のユネスコ活動の活性化のために国内外の次世代(10 代、20 代)が主体的・継続的に関わることのできるユネスコ活動について提言をまとめることを目的として日本ユネスコ国内委員会事務局の公募により令和 3 年 11 月より活動を開始。

本年 3 月に行われた日本ユネスコ国内委員会運営小委員会において任期が令和 4 年度末まで延長されたところ、現在、日本ユネスコ国内委員会に提出した提言「ユネスコ活動の活性化に向けて（令和 4 年 3 月）」に記載のアクションプランの実行を目的に、活動を行っている。

### ○構成員・組織

- ・日本ユネスコ国内委員会の公募により選出された 30 歳以下のユース 18 名。  
（詳細は別添のとおり）
- ・アクションプランの実行に際し、「教育」「科学」「文化」「プラットフォーム」の 4 つのワーキンググループを設置。
- ・委員会全体の取りまとめを行うリーダーと各グループの取りまとめを行うグループリーダーを設置。

### ○各ワーキンググループにおける進捗状況（概要）

教育グループでは、大学生を対象とした対話型ワークショップの内容・資料開発、実施の 2 点を本年度の注力分野と位置づけ、現在事業実施に向けて連携先との調整を進めているとともに、ワークショップの内容の具体化を行っている。

科学グループでは、エコパーク、ジオパークの現場の状況を把握し、ユースとの協働可能性を探ることを本年度の課題としており、オンラインでのヒアリングを進め、フィールドワーク実施の検討を進めている。

文化グループでは、アクションプランを実行する上で欠かせない、ユネスコ創造都市ネットワーク国内加盟都市における事業の現状やユース世代の参画に関する情報収集を行うとともに、ネットワークを広げるべく創造都市訪問や関係者との意見交換を重ねている。今後、アンケート調査等も実施し、創造都市とユースの関わりについてさらに可視化を図っていく。

プラットフォームグループでは、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) の運営の下進められている「ユネスコ活動プラットフォーム共創ワーキン

「ググループ」に参画し、ユースがユネスコ活動により参画できるプラットフォームの構築に向け活動を行っている。

## 2. 各アクションプランの進捗状況と今後へ向けた課題

※（以下○がアクションプランの内容）

### 提言1. 対話型ワークショップの実践

#### ○主に大学生を対象とした対話型ワークショップの実施

（背景・目的）

現在国内で行われている対話・交流事業が教育現場での一部の職員・学生間での活動に限定されていること。また、現在の日本の教育現場では他者と対話・議論をする機会が乏しい傾向にあるという2つの大きな課題意識に基づき、次世代を担うユースが他者との対話におけるアプローチ・手段を学ぶことができるトレーニングワークショップをESDの一環として実施することを提案し、現在企画を進めている。

初年度である本年度の事業では、大学生を対象とした対話型ワークショップのコンテンツ・資料開発、2回のワークショップ実施という2点に注力する。事業実施において必要なネットワークを関係機関と構築することで、次年度以降の事業の円滑な運営体制を整えることを狙いとする。

（これまでに取り組んだこと）

- ・ 文部科学省とのキックオフ会議を実施（5月31日）
- ・ チーム再編成後のビジョン策定（5月中旬～6月上旬）
- ・ ワorkshop内容の具体化（6月中旬～7月下旬）
  - テーマ：東広島市における移民社会と多文化共生
  - 手法：紛争解決・演劇（ロールプレイ）
  - 開催時期：10月中旬～下旬
- ・ 協力機関との調整（6月中旬～7月下旬）
  - 広島大学 EVRI・コンソーシアム担当の先生方（丸山恭司先生、由井義通先生との面談（6月27日）
    - ワorkshop実施における事業内容の説明と協力要請。
    - 事業内容を具体化の上、8月に再度調整すると確認。
    - 広島大学ESDコンソーシアムが担当している高校生を対象とした「ワールドワイドラーニング」等との連携を検討したが、実施対象が全国の高校生であり、「地域の具体的な課題や多様性に気づききっかけを創出」という当事業の趣旨に合わないため、現在広島大学ダイバーシティ研究センターとの連携を検討中。（面談予定8月24日）
  - 早稲田大学上杉勇司先生との面談（7月6日）
    - ロールプレイを用いたワークショップについての助言。ワークショップ実施における指導も現在要請中。

(今後取り組むこと)

- ・ ワークショップ（第1回目）について
  - 協力機関の決定（8月中予定）
  - 教育グループ勉強会の開催（8月14日～9月4日、計4回）
    - 教育グループ内でワークショップの手法を学ぶ勉強会を実施。
  - 開催日時の調整（10月中旬～下旬を予定）
  - 実施形態：オンライン
- ・ ワークショップ（第2回目）について
  - 開催時期：2023年2月実施予定。

(その他の活動：国際会議への参画)

2022年6月5～7日にタイ王国バンコクにて開催された「2nd Asia-Pacific Regional Education Minister's conference (APREMCII)」に次世代ユネスコ国内委員会を代表してメンバーの細谷が参加。

- 会議の概要：
  - 46か国の大臣及び専門家や有識者がSDG4に向けて地域ごとの進捗を確認し、進展を加速するための教育の変革、そしてCOVIDによる教育の危機からの回復について議論し、優先事項について合意した。
- ユースの関わり：
  - UNICEFのインターン生であるフィリピンの青年を筆頭に、オーストラリア、マレーシアの代表3名と共に、アジア太平洋地域のユースが主催する団体のリーダーを招集した会合を企画し運営。本ユース会合には、次世代ユネスコ国内委員会の教育グループから代表で小林が参加し、SDG4の達成に向けた課題や優先事項、また教育の復興と変革に向けた戦略と政策について議論を行った。
  - 会合にて挙げた声や意見をユースステートメントとしてまとめ上げ、教育大臣会合の場でスピーチを発表。（本ページのYouth Statementパート参照 <https://apasdg4education2030.org/apremc2022/>）
  - ステートメントの概要：教育への資金投資や教師の職業の質を担保すること、持続可能な教育の実践、21世紀の社会ニーズに対応するカリキュラムの変革、若者のエンパワーメント等を声明に盛り込む。
- 8/12 国際青少年デー：
  - 2022年のテーマ「世代間の連帯：全ての人のための世界の創造」を記念して、上記4名のユースにてユネスコバンコクの記事に寄稿。  
<https://bangkok.unesco.org/content/youth-advocates-propel-transformed-vision-education-apremc2>

## 提言2. ユネスコエコパーク及びユネスコ世界ジオパークへのユースの積極的な参画

### ○各登録地域でのユースアンバサダーの任命

### ○登録地域におけるユースの学術研究フィールドワークの推進

(背景・目的)

ユース世代におけるユネスコエコパーク（以下「エコパーク」という。）、ユネスコ世界ジオパーク（以下「ジオパーク」という。）の認知度が低いこと、活動の活性化が難しいことを課題と認識している。その解決のため、上記のアクションプランの実行に向けた取組を検討している。

提言においては、エコパーク、ジオパーク周辺の影響力のある U30 のユースをアンバサダーに任命し、SNS やイベントにて、登録地域や、周辺地域の魅力について積極的に発信することを想定していたが、関係者の方々と意見交換を重ねる中で、各エコパーク、ジオパークでは、様々な情報発信の取組が各地域の実情に即して行われていることを改めて認識した。

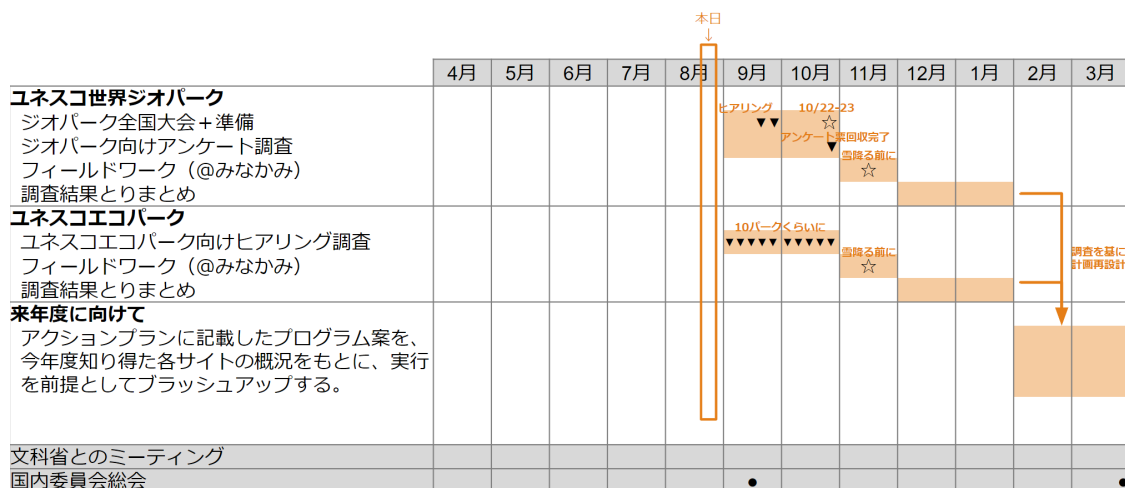
また、ユースのエコパーク、ジオパークでの学術研究フィールドワークの実施・企画運営を推進するとともに、得られた研究成果を地域資源の利活用のために広く公開し、意見交換をする場を設けることに関しても、各地域で大学等と連携しながら、様々な形で学術的な場として活用されていることについて理解を深めた。

以上のことから、各エコパーク、ジオパークの体制や取組に即した形でのより効果的な実施を目指し、今年度は、次世代ユネスコ国内委員会委員が、各地域への訪問やイベントの参加等を通じ、ユースとしての視点を発信しながら、委員自身が肌で感じた各エコパークやジオパークの実態や取組を踏まえたアクションプランの最適化を行っていきたい。

(これまでに取り組んだこと)

- ・ 文部科学省、大野希一委員とのキックオフ会議（7/7）
- ・ こども霞ヶ関見学デーにおけるエコパーク、ジオパークブースの訪問及び情報収集（8/3）
- ・ 文部科学省、大野委員（鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会）、近藤さん（日本ユネスコエコパークネットワーク事務局／只見ユネスコエコパーク）と個別に打合せ（8/3）
- ・ 基本方針の再決定
  - 来年度以降のユースアンバサダー、学術研究フィールドワークの推進を含めたユースの積極的な参画の在り方を検討するため、今年度は次世代ユネスコ国内委員会委員自身が各エコパーク、ジオパークのユース参画に関するニーズやシーズを明確化する。
- ・ 具体的な活動内容について再検討
  - 登録サイト担当者との打合せを受けて、今年度から直ぐにアクションプランを推進するのではなく、現場で取り組まれている活動やニーズについての把握が更に必要なことが判明したため、関係者へのヒアリング等を通じて、各サイトとの協働方法を模索する。これらを踏まえ、各エコパーク、ジオパークの体制や取組に即した形でのより効果的な方法での実施を目指すこととする。

- ・ 年間計画について再検討（以下参照）



(今後取り組むこと)

- ・ エコパーク
  - ニーズ調査：ユネスコエコパークにヒアリング調査で仮説設定→フィールドワーク（みなかみユネスコエコパーク）で仮説検証
  - 実際に取り組まれている活動等を踏まえた上での、ユース世代に向けた効果的な情報発信方法及び内容について検討
- ・ ジオパーク
  - 全国大会でのポスター発表：ユネスコ世界ジオパーク関係者2～3人にユース参画に関する取り組みヒアリング→ヒアリング結果をまとめて発表
  - ニーズ調査：ユネスコジオパークにアンケート調査で仮説設定→フィールドワーク（糸魚川ユネスコ世界ジオパーク）で仮説検証

### 提言3. 「ユネスコ創造都市ネットワーク」事業へのユースの積極的な参画

#### ○創造都市事業と他のユネスコ事業（特にユネスコスクール）との連携促進

(背景・目的)

現状、ユネスコ創造都市事業においてはその潜在的な可能性が大きいにも関わらず、事業の認知度の低さや他のユネスコ事業との連携の希薄さ、国内における加盟都市間ネットワークの不足などから、一般市民(特にユース世代)による文化・芸術関連事業への参加や国際的な枠組みを活かした取り組みを十分に後押しすることが出来ていない現状にあると考えている。本アクションプランを実行することで創造都市事業と他のユネスコ事業、特にユース世代との関わりが深いユネスコスクールとの連携を強化することで、ユネスコ活動のシナジー効果を発揮させ、創造都市事業の知名度向上やユース世代による参画促進を図る。

(これまでに取り組んだこと)

- ・ 旭川デザインウィークを視察し、旭川市創造都市関係者、ユネスコスクール加盟校に通う生徒を含むユース世代との意見交換を実施。
- ・ 山形市・神戸市の創造都市担当者・関係者と意見交換を実施。
- ・ 文部科学省の担当者とアクションプラン実施への課題整理を行うとともに具体的

アプローチ方法について意見交換を実施。

- ・ 以上の意見交換を踏まえ、アクションプラン実現に向けた具体的な方策について再検討。（詳細は今後取り組むことに記載のとおり）

（今後取り組むこと）

- ・ 国内加盟都市（10 都市）について、「各都市の創造都市事業におけるユースの位置付け、ユース参画の事例」「創造都市事業と他のユネスコ事業（特にユネスコスクール）との連携」に焦点を当てたアンケート調査を実施し、詳細な現状を把握。（9月～10月）
- ・ 上記の結果をもとに創造都市事業へのユースの参画・創造都市事業と他のユネスコ事業との連携に関する先進事例について焦点を当て現地への訪問・オンラインインタビュー等を実施。（9月～）
- ・ オンラインインタビューや現地訪問について動画や記事にまとめユネスコ未来共創プラットフォーム HP 上で発信。（HP 公開後）

## ○ユース世代を対象とした「ユネスコ創造都市ユースサミット（仮称）」の開催

（背景・目的）

現在、既にいくつかの国内の加盟都市において、ユース世代が主体的・積極的に関わる創造都市事業が展開されていることを踏まえ、各都市のユースによる先進的な活動事例の共有が行われることで、国内外ユース間の活動の連携強化やユース世代への更なる創造都市事業の浸透を図ることを目的とする。

（これまでに取り組んだこと）

- ・ 旭川デザインウィークを視察し、旭川市創造都市関係者、ユネスコスクール加盟校に通う生徒を含むユース世代と意見交換を実施。
- ・ 山形市・神戸市の創造都市担当者・関係者と創造都市サミット開催時の連携可能性等について意見交換を実施。
- ・ 文部科学省の担当者とアクションプラン実施への課題整理・意見交換を実施。

（今後取り組むこと）

- ・ 来年度以降の次世代ユネスコ国内委員会の位置付け、存続期間等に応じてアクションプラン実現の具体的ロードマップを作成。
- ・ 次世代ユネスコ国内委員会としてサミットについて対面での開催を模索しており、予算面や参加者の安全性を考慮し、いずれかの国内加盟都市と共催することが重要であると考えている。
- ・ 今年度はオンラインを活用した「プレユネスコ創造都市ユースサミット」及び ACCU が来年2月頃開催予定のオンラインイベント「UNESCO WEEK(仮称)」における創造都市関連イベントを企画・実施し、来年度、対面での「ユネスコ創造都市ユースサミット」を行う流れへとつなげていくことを軸に検討を行っていきたい。

## 提言4. 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」へのユースの参画

### ○ユースによるユネスコ関連組織と、ユースからのコンタクトを歓迎する団体リストの作成と周知

#### (背景・目的)

次世代ユネスコ国内委員会としてユース世代においてユネスコ活動の具体的な内容や活動への関心が低いこと、ユネスコ活動に関心を持つユースにとってユネスコ関連組織とつながる機会を見つけることが難しいことを課題として認識している。

この課題の解決のため、ユースが主体となって運営しているユネスコ関連組織とユネスコと親和性の高い組織、及び精力的にユネスコ活動に従事するユースからのコンタクトを歓迎する団体リストを作成し、「ユネスコ未来共創プラットフォーム」上に掲載することにより、当該サイトの活用を促進するとともに、ユースによるユネスコ関係団体に関する情報アクセスを向上させ、ユネスコ活動への積極的な参加を促す。

#### (これまでに取り組んだこと)

- ・ 文部科学省とのキックオフ会議を実施(5/31)
  - ユネスコ未来共創プラットフォーム事業における今年度の実施方針を確認。
  - 以下の年間計画で各活動に取り組むことを提案。アクションプラン(1)については、コンテンツの検討は継続中。関連組織へのアポ取りは、ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局(後述)と連携の上、9月以降実施予定。アクションプラン(2)については、コンテンツの検討及び制作についても、9月以降プラットフォーム事務局と推進する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>アクションプラン(1) 団体リストの作成と周知</b>												
コンテンツの検討(開示情報、情報の見せ方など)												
ユネスコ関連組織へのアポ取り												
ユネスコ関連組織の情報取りまとめ												
<b>アクションプラン(2) ユースページ(仮称)設置</b>												
コンテンツ検討(ユースページやユース質問室など)												
コンテンツの制作(事務局と要相談)												
ユースページ(仮称)公開												
<b>アクションプラン(3) ユースフォーラム</b>												
コンテンツ検討(イベントの時期、内容、対象など)												
イベントの準備(ボランティア募集、広報など)												
イベント実施												
文科省とのミーティング		★	★	★		★		★		★		
国内委員会総会						●						●

出所：R4 年度キックオフ会合における次世代ユネスコ国内委員会委員から文部科学省への提案資料より抜粋

(図 次世代委員が想定するプラットフォーム事業の実施計画)

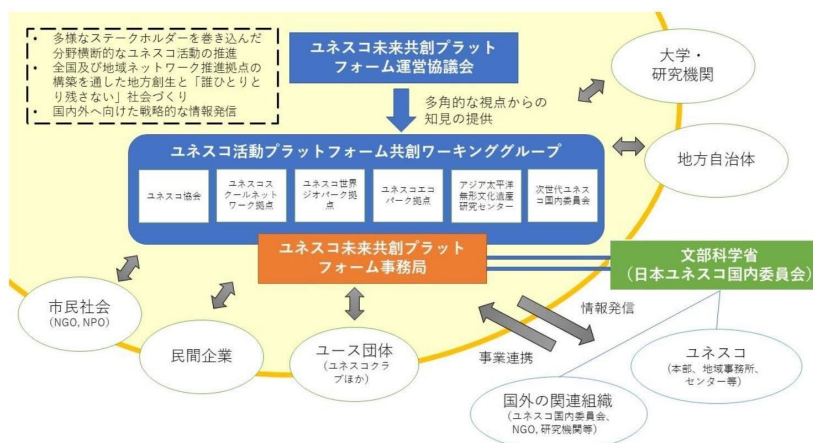
- ・ 今年度、ユネスコ未来共創プラットフォームの事務局を担う ACCU、文部科学省、次世代ユネスコ国内委員会での3者会議を実施。(7/14)
  - 昨年度作成した提言に基づき次世代ユネスコ国内委員会委員が想定する今年度の実施計画を提案。

- 事務局側からは、ユネスコ活動を推進する各分野担当の事業者で構成する「ユネスコ活動プラットフォーム共創ワーキンググループ」について説明。



出所：ACCU－文科省一次世代委員会での3者会議における提案資料より抜粋  
 (図 次世代委員から ACCU へのプラットフォーム事業に関する提案資料)

- ・ 第一回ユネスコ活動プラットフォーム共創ワーキンググループへの参加(8/4)
  - ワーキンググループ参加の各事業者との顔合わせ及び今年度の活動方針のすり合わせ。
  - 現在のポータルサイトに関する意見交換。



<ユネスコ未来共創プラットフォーム事業イメージ図>

提供：ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局  
 (図 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業推進のイメージ)



(今後取り組むこと)

- ・ ユースの受け入れを歓迎する団体リスト作成に当たって、全国のユネスコ活動関係団体宛て、ユースを対象とした活動や事業への参画の可否について調査するアンケートのドラフトを作成。(9月上旬まで)
- ・ 第二回ユネスコ活動プラットフォーム共創ワーキンググループへの参加。(9月中旬)
- ・ ACCU 及びワーキンググループ参加事業者との連携の下、アンケート調査を実施。(10月)
- ・ アンケート結果の取りまとめ。(11月)
- ・ アンケートの結果を基に、ユースの受け入れに積極的なユネスコ関連団体について、ワーキンググループ内で検討の上、プラットフォーム上で公開予定。(12月)

## ○「ユネスコ未来共創プラットフォーム」上にユース専用ページ「ユースページ(仮称)」を設置

(背景・目的)

ユネスコ関連活動の情報を集約・発信を担う「ユネスコ未来共創プラットフォーム」のユースによる認知度が限定的である点が課題として挙げられる。

多くのユースがユネスコ未来共創プラットフォームにアクセス・活用し、ユネスコ活動の参画に繋がるため、ユースに向けた情報を集約した「ユースページ(仮称)」を設置する。また SNS を積極的に活用し、プラットフォームの認知度向上を図る。

(これまでに取り組んだこと)

ACCU と協働し、ユースページ(仮称)の設置に向けて協議を進めている。国内のユネスコ活動を牽引するユネスコ関連団体で構成されている「ユネスコ活動プラットフォーム共創ワーキンググループ」にて、各分野からの意見を伺い、作成に向け検討を進めている。

(今後取り組むこと)

- ・ ユースページ(仮称)の設置には、ACCU との協働が必須であると認識している。そのため、上記ワーキンググループでの協議を中心に進め、ACCU とユースページ(仮称)の設置/SNS 運用に向けて取り組む。

## ○「次世代ユネスコユースフォーラム」の実施

(背景・目的)

ユネスコ関連活動に取り組むユース同士での交流の機会が少ないことを課題として考えている。交流を促進し、またユース世代のユネスコ活動の活性化を図るため、「次世代ユネスコユースフォーラム(以下、「ユースフォーラム」という。)」を年に1回実施する。

(これまでに取り組んだこと)

- ・ ACCU、文部科学省との3者会議の際に次世代ユネスコユースフォーラム（仮称）の実施について提案。今年度はアクションプラン(1)、(2)を優先的に実施する旨、文部科学省と合意しているため、現時点ではユースフォーラムの具体的な内容については検討していない。一方、ユネスコ未来共創プラットフォームが翌年3月に開催予定のオンラインイベント「UNESCO WEEK(仮称)」において、ユース関連のセッションを設けたい旨を打診した。

(今後取り組むこと)

- ・ ユースフォーラムに関しては、来年度に正式なフォーラムを開催する計画で進めるため、今年度はユネスコ活動に取り組むユース団体が集うイベントの開催を想定している。イベントの詳細に関しては検討中だが、ユース間の横連携拡大及びユースによるユネスコ関連活動の活性化を目的に、ユース主体のユネスコ関連団体間で、各団体の活動内容や直面する課題、その解決方法等を共有できるようなイベントを想定している。

## 令和4年度次世代ユネスコ国内委員会 グループ別名簿（令和4年4月）

教育		科学		文化	
氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名
長谷川 綾子 (教育リーダー)	ハイデルベルク大学大学院文化越境専攻 (M.A. Transcultural Studies)	吉川 愛梨沙 (科学リーダー)	東京農工大学農学部地域生態システム学科2年	渡邊 桃子 (文化リーダー)	西村組
青山 友基	兵庫県立川西明峰高等学校教諭	沖田 広希	EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	田中 麻琴	株式会社イト日本技術開発
東 和佳奈	神戸大学国際人間科学部3年	★小林 真緒子	津田塾大学総合政策学部総合政策学科3年、一般社団法人アンカー 理事	★長澤パティ明寿	慶應義塾大学総合政策学部3年/unicef Campus 事務局
川上 寛人	岡山理科大学工学部情報工学科2年	茶山 健太	オックスフォード大学地理環境学部博士課程2年	中原 瑠南	University College London 1年
川端 優木	国際教養大学国際教養学部1年	細谷 優希	Salesforce Japan/Net Zero Cloud プロダクトマネージャー	長谷川 綾子  (小林 真緒子)	ハイデルベルク大学大学院文化越境専攻 (M.A. Transcultural Studies)
桐葉 恵	NTT DATA 営業	(長澤パティ明寿)			
★小林 真緒子	津田塾大学総合政策学部総合政策学科3年、一般社団法人アンカー 理事				
杉戸 卓磨	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター国際教育交流部プログラム・オフィサー				
三浦 唯	Brown University 1年				
森田 乃絵 (長澤パティ明寿)	玉川大学教育学部4年/文化会ユネスコクラブ所属				
計 11 名		計 6 名		計 6 名	

※1 「ユネスコ未来共創プラットフォームへの参画」に係るグループには次世代ユネスコ国内委員会委員全員が所属する。プラットフォームグループのリーダーは川端優木さん。

※2 ★は、次世代ユネスコ国内委員会のリーダー2名。リーダーは全てのグループに参加し、活動の状況把握及びサポート等を行う。